

1-5. 産業革命

以下の問いを意識しながら読み進めてください。

Q. 産業革命の歴史的意義は何か？

(産業革命はどのような意味で「革命」なのか？)

産業革命の背景

なぜイギリスで始まったのか？

1. 資本の累積

① 毛織物工業（マニュファクチュア）の発展

第一次囲い込み→土地を失う農民→毛織物工業（工場制手工業）に労働者として流入
→毛織物業者を中心に国内の資本が累積

② 大西洋三角貿易（併せて資料集P.183 資料4・6参照）

1713年ユトレヒト条約ーイギリス、独占的奴隷供給権獲得

→砂糖、タバコ貿易などで莫大な利潤→貿易業者を中心に国内の資本が累積

※ただし、これまでの研究で毛織物業者や奴隷貿易業者が綿織物業者に出資したという事実が見つかるだけではなく、資本の累積が相対的に増え、あくまでも間接的に産業の発展を支えたと言えよう。

大西洋三角(奴隷)貿易概要

アフリカ東岸

その武器を利用し、奴隷狩りを行いイギリス商人に売る

17c~支配者に武器を輸出

イギリスの奴隷貿易含む大西洋三角貿易

奴隷

19c~綿織物

空荷のない効率的な方法で莫大な利潤を得る

※特に奴隷貿易の拠点港：リヴァプール + 後背地 工業都市：マンチェスター 資本が蓄積

アメリカ大陸
西インド諸島

イギリス本国

キャラコ

インド

黒人奴隷をプランテーションで使役し、砂糖、タバコなどをアメリカ大陸・西インド諸島で生産、イギリス本国へ輸出
19c~アメリカ南部で綿花プランテーションが盛んに。

産業革命の背景

なぜイギリスで始まったのか？

2. 海外市場の拡大

工業製品の市場となる海外植民地を既に持っていたことが、イギリスにおいて産業が発展したことの一要因と考えられる。※イギリスほど海外に市場を持つ国は他になかった

① 北米大陸領地拡大

1713年 ユトレヒト条約

- フランスからニューファンドランド、アカディア、ハドソン湾地方を獲得
- スペインからジブラルタル、ミノルカ島を獲得

1763年 パリ条約

- フランスからカナダとミシシッピ以東のルイジアナを獲得
- スペインからフロリダを獲得

② インド植民地の獲得

1757年 プラッシーの戦い（対仏）に勝つ→インド植民地支配の主導権

産業革命の背景

なぜイギリスで始まったのか？

3. 労働力の確保

人口増に伴い食糧需要が増大化。それを実現するため農業革命と第二次囲い込みが進行。それにより土地を失った農民が都市に流入し新しい産業が必要とする労働力の供給源となった。

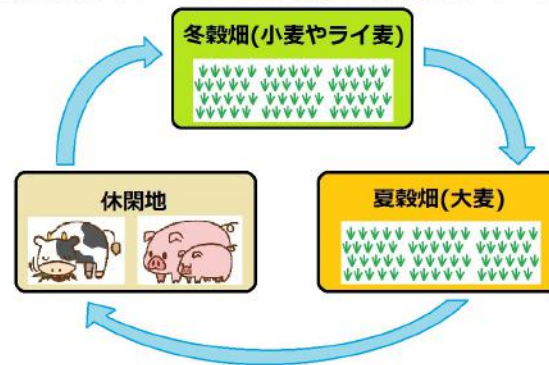
① 農業革命

三圃制農業からノーフォーク農法（教科書では輪作）への移行→穀物生産増大

② 第二次囲い込み

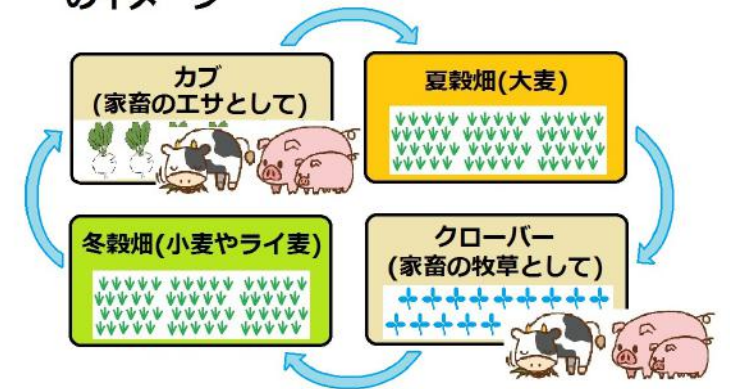
ノーフォーク農法を行うため農民が所有していた小さな農地を地主が囲い込み→穀物増産、人口の増加を支える

三圃制のイメージ...3つの畑を1年ごとにローテーション



移行

ノーフォーク農法のイメージ...4つの畑を1年ごとにローテーション



技術革命 (綿工業)

産業革命はどのように進化したのか？

織布部門	紡績部門	綿摘み部門
<p>1733 ジョン・ケイ 飛び杼発明 織布の速度がそれまでの倍に →糸不足が深刻に。紡績部門への圧力</p> <p>動力革命 1710 ニューコメン 蒸気機関発明 1769 ワット 蒸気機関改良 →実用化</p> <p>1784 カートライト 力織機発明 1787には蒸気機関を導入し生産力は三倍以上に。</p>	<p>1764頃 ハーグリーブズ ジェニー紡績機発明 人力だが同時に複数の糸を紡ぐことができるように。</p> <p>1769 アークライト 水力紡績機発明 動力に水力を用いて、より丈夫な糸が生産できるように。 →綿糸の工場生産可能に。</p> <p>1779 クロンプトン ミュール紡績機を発明 ジュニー紡績機と水力紡績機を統合。綿糸の大量生産が可能に。 →1789には蒸気機関が取り付けられ、自動化 →織布部門への圧力</p>	<p>1793 ホイットニー (米) 綿繰り機発明 →綿花の生産量増大</p>

「産業革命における工業生産技術の革新は、まず 18 世紀後半に軽工業の綿工業(木綿工業)から始まり、紡績(綿花から綿糸を紡ぐ技術)と織布(綿糸を織って綿布を製造する)の部門で**競合しながら進んだ。**」
世界史の窓「産業革命」(<https://www.y-history.net/appendix/wh1101-000.html>)より

綿工業における技術革命の意義

①他の産業部門に先駆け、工場制度が生み出される→産出高の2200%増大

②綿花の輸入量 1750→90 12倍に

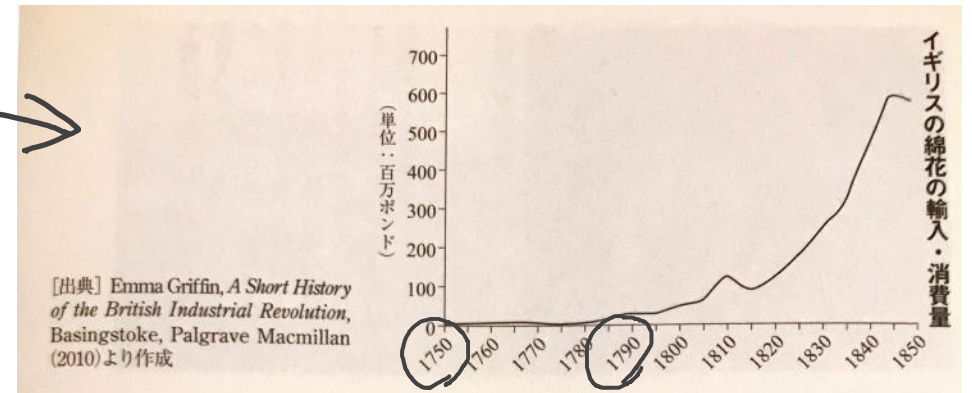
③蒸気機関を動かすための木炭の不足

木炭は建築・造船用材など多くの部門で需要が高かったため、木材を使いすぎて「森林の枯渇」という深刻な問題を抱えていた。

その代替として使用されたのが**石炭**

→蒸気機関の熱源として19世紀工業化のエネルギー源となる。

豊富な石炭資源を採掘することにより、「有機物依存経済」（植物や動物に依存する経済、土地の生産性に根本的に制約される）から「鉱物依存経済」へ移行した



長谷川貴彦『世界史リブレット 産業革命』山川出版社(2012)P.50より

交通革命

産業革命はどのように進行したのか？

綿製品や燃料としての石炭を市場に運ぶため交通機関の改良が行われた

1761 ブリッジウォーター公による運河開発

→石炭をマンチェスターに運ぶ

1807 フルトン（米）蒸気船発明

1814 スティーヴンソン 蒸気機関を鉄道に応用→実用化

1825 鉄道開通

1830 マンチェスター・リバプール間で鉄道営業開始

風や潮流の影響を受けることがなくなり、貨物量が飛躍的に拡大

産業革命の影響と評価

① 都市化

産業革命によって農民が都市へ移動、都市人口が増大した。ロンドン以外にも、マンチェスター、リバプール、バウムンガムなど新興商業都市が生まれ、スラムの形成など新たな問題を引き起こした。

② 労働問題

資本家が労働者を搾取し、低賃金、長時間労働が代表する労働問題を引き起こした。

③ 「世界の工場」化...イギリスの経済学者スタンレー＝ジェヴォンズによる概念

「インドはわがために綿花を作り、オーストラリアはわがために羊毛を剪（き）り、ブラジルはわがために香高き珈琲（コーヒー）をつくる。.....世界はわが農園、イギリスは世界の工場（workshop of the world）」「アメリカとロシアの平原は我々の島であり、シカゴやオデッサの穀物、カナダや北欧の森林、オーストラリアの牧場、カリフォルニアとオーストラリアの金、ペルーの銀、中国の茶、西インドの砂糖、世界各地の綿花等々はわが国に流れ込む。」

< 『イギリス史』 大野真弓編世界各国史旧版 山川出版社 p.231 >

→18世紀以降、世界は原料・資源の供給地、商品市場としてイギリスを中心に結び付けられる

☆生活水準論争

産業革命時、年の労働者の生活は劣悪なものだったというイメージについて様々な議論がある。資料をもとに、悲観論者・楽観論者の主張と現在主流となっている説を紹介する。

・実質賃金（プリント資料①参照）

楽観論者は資料①の統計を利用して、実質賃金が1840年以降上昇していることを根拠に生活の質は向上していたと指摘する。

→実際、紡績工などの工場で仕事を確保することができた比較的裕福な家族が存在したことがわかっており、それらの人々は妻や子どもを養うに十分な所得に上昇していたという。

一方悲観論者は資料①から、GDPは1800年以降増大しているにもかかわらず実質賃金は伸び悩んでいることを根拠に、不平等や格差の問題を指摘する。

・平均身長（プリント資料②参照）

資料②からは男性労働者の平均身長が、実質賃金は上昇しているにもかかわらず低下していることがわかる。人間の身長は、成長期に摂取した栄養や病気などの要因によって規定されるため、児童労働や労働時間の延長、環境の悪化が影響していると推測される。

現在主流となっている考え方；

実質賃金のかすかな上昇は、健康や福祉における高度なリスクと比べた場合、わずかな代償に過ぎなかった。（参考；村岡健次他『近代ヨーロッパの情熱と苦悩』中公文庫（2009））

モヤっとしたら

以上、読み進めてみてモヤモヤしたことありませんか？

例えば...

- ・ 伝統的な毛織物からなぜいきなり綿織物？

→産業革命前、イギリスの国民産業は毛織物（原料は羊毛）。品質の良い綿織物（キャラコ）は高級品としてインドから輸入していたが、その品質の良さから国内生産の需要が高まった。質の違いは画像検索するとわかりやすい！

- ・ 織布、紡績って何？

→スライドにもありますが...綿布を生産する過程には紡績(綿花から綿糸を紡ぐ)と織布(綿糸を織って綿布を製造する)二つの過程があります。

他にも質問があれば、遠慮無く連絡してください。